

登録コード	L2990800		開講年度	2026			
担当教員	小山 茂喜			副担当			
授業科目	博物館情報・メディア論						
英文授業名	Museum Information and Media						
授業タイトル	博物館情報・メディア論						
単位数	2	対象学生		講義期間	通年(集中)	曜日・時限	集中・不定期
講義室			遠隔授業科目		読替科目	読替科目は履修案内を確認すること	
信大コンピテンシー	非該当						
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				【授業の達成目標】		
	2022Lカリ, 2021Lカリ, 2020Lカリ						
	【2022年度以前加付対象】情報を適切に集約・分析・表現できる高度なメディアリテラシー				様々な文化のありようについて、幅広く探究する能力を身につけ、資料を整理し情報発信ができるようになる。		
	2026Lカリ, 2025Lカリ, 2024Lカリ, 2023Lカリ						
	【2023年度以降加付対象】人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力が身につけている。【思索力・受容力・批判力】				様々な文化のありようについて、幅広く探究する能力を身につけ、資料を整理し情報発信ができるようになる。		
	【2023年度以降加付対象】必要な情報を的確に収集し、理解し、発信する力が身につけている。【メディアリテラシー・コミュニケーションリテラシー・外国語能力】				様々な文化のありようについて、幅広く探究する能力を身につけ、資料を整理し情報発信ができるようになる。		
【2023年度以降加付対象】専門的学力を基盤とし、持続可能な社会を実現するための課題に取り組む力が身につけている。【開拓力・企画発想能力】				様々な文化のありようについて、幅広く探究する能力を身につけ、資料を整理し情報発信ができるようになる。			
授業で学べる「テーマ」	芸術文化、キャリア						
全学横断特別教育プログラム							
授業の概要	具体的な事象を通して、ICT社会の中の博物館における情報資源の活用や役割ならびに博物館活動の情報化について学ぶとともに、博物館における知的財産にかかわる内容についても学ぶ。						
授業計画	第1回 人間の情報処理と映像理論 第2回 情報教育の意義と重要性 第3回 情報機器の活用 第4回 インターネットの活用 第5回 情報管理と情報公開 第6回 学校・図書館・研究機関との連携 第7回 新たなメディアと博物館 第8回 博物館における情報の意義 第9回 メディアとしての博物館 第10回 ICT社会の中の博物館 第11回 博物館活動のDX化 [歴史館学芸員] 第12回 資料のドキュメンテーションとデータベース化 第13回 デジタルアーカイブの現状と課題 第14回 博物館メディアの役割と学習活用 第15回 博物館情報の発信・授業のふりかえり						
成績評価の方法	授業の中で課す課題レポート5割、授業後の課題レポート2割、授業の中での活動参加度等3割で、総合的に評価する。						
成績評価の基準	評価の規準（おおむね達成すべきレベル） ・博物館における情報管理について理解し、適切に処理する能力を身につけた。 ・デジタル情報の特性を理解し、デジタルコンテンツを作成することができる。 ・学校教育での博物館活用のあり方について理解し、教材開発等ができる。 基準 ○到達度が十分満足できレベルで特に程度が高い場合...かなり上にある ○到達度が十分満足できるレベル...やや上にある ○おおむね達成された...規準値 ○努力を要すると判断されるもの						
事前事後学習の内容	事前に配布する資料を読み、内容を把握する。 授業内で課すデジタルコンテンツを作成する。 博物館活用のためのテキストを作成する。						
履修上の注意	学芸員資格取得希望者は必ず受講すること。 授業は、夏季休業中に松本キャンパスで、2月に県立歴史館で行う予定。						
質問、相談への対応	授業前後、並びに随時受け付けます。 メールでの問い合わせは、小山まで。 shigeki@shinshu-u.ac.jp						
教科書	なし						

参考書

「博物館情報・メディア論〔新訂〕」 鶴見 英成・近藤 智嗣，放送大学教育振興会，3740円